

## 医療群 院内薬局、即応に備える 374th MDG pharmacy: Ensuring readiness

March 9, 2018

By Airman 1st Class Juan Torres  
374th Airlift Wing Public Affairs

横田基地、キャンプ座間、横須賀海軍施設、アメリカ大使館の被保険者約35,000人にサービスを提供する第374医療群の院内薬局は、1日あたり約175の処方薬を調剤する、病院内で最も多忙な部署の一つだ。

横田基地において、院内薬局は、すべての患者に安全、適時、有効な薬剤を提供する責任を担っている。

院内薬局は、より直に患者に接する第374医療群の他の部署とは異なり、病院を訪れるチーム横田の患者に対し、陰で重要な役割を果たしている。

「我々は、第374医療群の他のスタッフのように、患者に直接に接することはないが、患者の治療法や、我々が提供する調剤薬によってどのように症状がよくなるかについて重要なアドバイスを提供する」と、第374医療支援中隊院内薬局下士官責任者のアーロン・ムズ-ケース軍曹は語る。

日常業務には、薬局窓口の担当、患者への安全性の確認、マルチサービス・ユニットや緊急医療を含む病院全体で補充しなくてはならないすべての薬剤の確認作業がある。

「多くの人は、我々が裏方で単純に薬を容器に入れる仕事をしていると想像するだろうが、特に患者を相手にする上では、それ以上に非常に細かい複雑な仕事がある」と、ムズ-ケース軍曹は言う。

一日の終わりに、彼らは薬品の在庫確認作業を行い、すべてが安全に管理され、保護されていることを確かめる。

また、24時間待機の薬局担当員を配置し、緊急時にも備えている。

横田の空兵が任務を遂行できる体制を整えているよう、即応力は薬局に求められる主要な要素の一つだ。

「戦闘態勢を備えるために必要なものを供給し、また適時に皆が医療サービスを受けられることで、どんな脅威にも立ち向かえる準備があることを重視している」と、ムズ-ケース軍曹は話す。



横田基地で3月6日、患者に処方薬を渡す第374医療支援中隊治療学小隊長のステシー・モロー曹長